

令和5年7月14日  
復興庁

## 令和4年度「新ハンズオン支援事業（グループ支援）」 の成果について

復興庁では、民間企業等からの出向職員（政策調査官）の知見を活用し、各種の専門家とともに被災地域企業の経営課題を解決する新ハンズオン支援事業（グループ支援・個社支援）を実施しています。

この度、復興庁が令和4年度に実施したこれらの事業の成果についてとりまとめましたのでお知らせします。

（添付資料）

別紙 令和4年度「新ハンズオン支援事業（グループ支援）」の成果

本件問合せ先

復興庁企業連携推進室 西沖、嶋根、小島、  
西林、瀬野

TEL : 03-6328-0267

## 令和４年度「新ハンズオン支援事業（グループ支援）」の成果

復興庁では、民間企業等からの出向職員（政策調査官）の知見・経験や、専門家による経営的助言を活用して、様々な経営課題を抱える被災地域企業や企業等のグループに寄り添いながら経営課題を解決する「新ハンズオン支援事業（グループ支援・個社支援）」を実施しています。

この度、令和４年度に実施した同事業におけるグループ支援の代表事例を以下のとおりとりまとめました。

### 【主な支援内容】

#### <グループ支援>

- 「テロワージュ東北」を核とした東北エリアの食品・観光産業の活性化  
（一般社団法人東北絆テーブル 等）  
→「テロワージュ東北」の発信を通じて東北の未来に貢献するため、仙台・東京・大阪にて、地元生産者やシェフなどと連携したイベントを開催
  
- 福島県浜通り地域発のイノベーション創出  
（ベンチャー企業を中心とした福島県内外の企業）  
→福島の新たな産業基盤の構築に向け、福島県浜通りで新たな実証や開発などの取組を始めるベンチャー企業の事業戦略策定等を支援

など 計３件

※ 上記代表事例の詳細については次ページ以降をご覧ください。

# 代表的なグループ支援の事例

---

支援事業

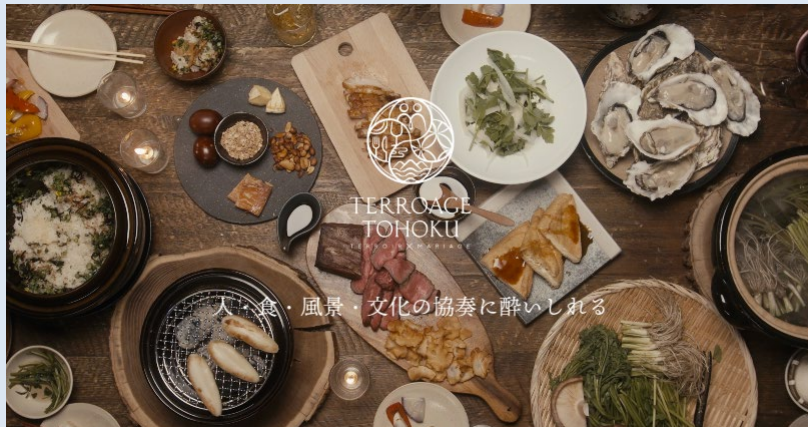
「テロワージュ東北」を核とした東北エリアの食品・観光産業の活性化  
(岩手県・宮城県・福島県)

主体事業者

一般社団法人東北絆テーブル

## 1. 事業概要

- テロワージュとは、気候風土と人の営みを表す「テロワール」と食と酒のペアリング、結婚を意味する「マリアージュ」を掛け合わせた造語
- テロワージュを通じて、東北の人・食・風景・文化の協奏による新しい感動体験を世界に発信



東北・美酒と食のテロワージュ公式サイト の画像

## 2. 支援背景（課題）

### 東北の一体感不足

- 地域の魅力がバラバラに発信されており、東北全体の一体感が不足

### 次世代の獲得と育成

- 東日本大震災以降に地域を牽引してきた事業者は、高齢化や引退者が増加しており、次世代の育成、橋渡しが急務
- 他地域との異分野交流・若い世代の巻き込みが必要



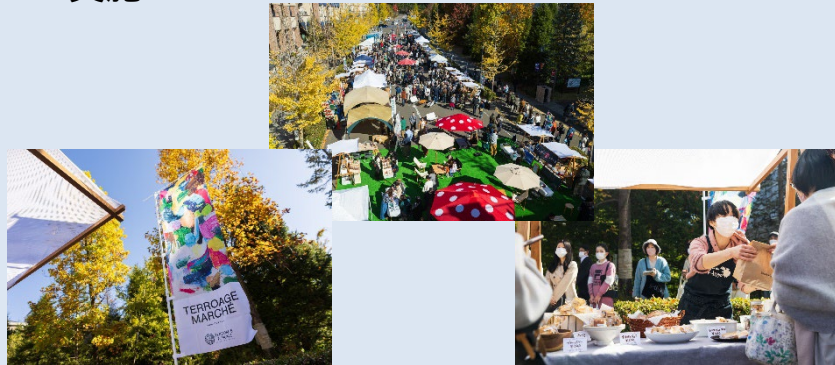
東北の四季折々の食材をテーブルに並べ、その魅力を表現

「テロワージュ東北」の発信を通じて東北の未来に貢献するため、仙台・東京・大阪において、テロワージュの考えに賛同する生産者やシェフなどと連携したイベントを開催。自走化を目指す「テロワージュ東北」の認知度の向上及び販売チャネルの開拓につながった。

## 3. 支援内容

### イベントの企画・実施 / 産地連携メニューの開発

- 定期的なイベント開催の足掛かりとするため、テロワージュ東北の世界観を魅せる飲食イベントを企画・実施
- 東北のシェフを組織化し、上記イベントへの参加や産地と連携し、東北の食と酒をふんだんに使用したメニュー開発、プロデュースを実施



仙台市での「テロワージュマルシェ～収穫祭～」の様子（令和4年10月）  
於：泉パークタウンTapio前特設会場

## 4. 支援の成果

- 仙台・東京・大阪において、飲食イベント「テロワージュマルシェ」、「テロワージュナイト」を計3回開催、販売チャネルを開拓
- 取組みに賛同するシェフグループによるメニュー開発やお酒とのペアリングを実施。その結果、テロワージュの魅力が参加者に伝わり、認知度向上につながった。



東京での「テロワージュナイト」の様子（令和5年1月）  
於：有楽町microFOOD & IDEA MARKET

支援事業

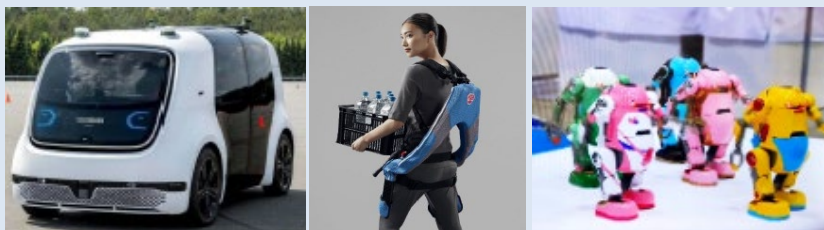
福島県浜通り地域発のイノベーション創出

主体事業者

ベンチャー企業を中心とした福島県内外の企業6社

## 1. 事業概要

- イノベーションコースト構想の重点6分野に関連する固有のシーズ技術を持ち、今後、その技術の事業化を目指す、ベンチャー企業を中心とした福島県内外の企業を選定
- 既存の補助金等の優遇制度の活用も念頭に、福島県浜通りにおいて、地元企業等と連携した実証・実用化に向けた、事業戦略策定や体制構築を側面支援し、福島発のイノベーションを創出



支援企業の固有シーズイメージ（自動運転関連、ロボット関連など）

## 2. 支援背景（課題）

### 福島産業と生業の再生

- 特に福島県浜通りにおいては、新たな産業基盤の構築に向け、企業の呼び込みが必要

### 浜通りにおける固有シーズの事業化の確度向上

- 事業化を見据えた事業戦略・ビジネスモデル（競合他社の分析や効果的な他企業との連携、知財活用など）の更なる磨き上げが必要

### 浜通り進出に向けた体制づくり

- 固有シーズの事業化に向けた、実証・実用化のため連携が必要な地元企業や自治体に関する知識やコネクションが支援企業に不足

福島の新たな産業基盤の構築に向け、福島県浜通りで新たな実証や開発などの取組を始めるベンチャー企業などの事業戦略策定や浜通りでの体制構築を支援し、イノベーションの加速化に貢献。

## 3. 支援内容

### 事業戦略・ビジネスモデル策定

- 専門家による、知財戦略を中心とした、競合分析や連携企業選定など、浜通りにおける固有シーズの事業化に向けた事業戦略・ビジネスモデル策定を支援

### 福島浜通りでの体制づくり

- 復興庁職員が関係機関等のコネクションを活用して地元企業や自治体とつなぎ、円滑に連携につながるよう後押し



事業戦略策定支援における経営会議イメージ

## 4. 支援の成果

### 浜通り進出に向けた事業戦略策定及び体制構築

- 支援企業ごとの事業戦略・ビジネスモデル策定
- 浜通りでの実証・実用化に向けた連携体制構築

### 支援企業の浜通りへの進出

- 支援企業のうち2社が、令和5年度に浜通りにおける優遇施策を活用し、浜通りでの実証・実用化の取り組みの実施を計画
- また、その他4社が来年度の浜通りでの実証・実用化の取り組み実施に向けて、体制構築等の準備を継続